

令和4年度伏見区地域保健推進協議会議題に係る意見について

〈議題〉

1 部会長・副部会長の選出について

- ・ 承認 15名
- ・ 不承認 0名

案のとおり、部会長に小川正雄氏、副部会長に大木弥生氏を選任する。

〈報告〉

1 令和3年度事業実績報告について

- ・ 特に意見なし

【その他（感想等）】

- ・ コロナ禍でむずかしい中、よく事業が出来たと思いました。ご苦労様でした。
- ・ コロナ禍で中止になった健康講座では、遅ればせオンラインの試みを実施され、よかったと思う。地域出張の取り組みも多忙な中、おつかれ様でした。
- ・ 多岐分野（世代）に渡り、健康について配慮された事業を行われて良いと思いました。

2 伏見区の健康課題と事業取組について

- ・ 醍醐地区の“う歯罹患率”が高いという状況なので、歯っぴースマイル京都以外の方策も検討する必要があると考えます。
- ・ 老人が元気で外に出られるイベントを作って下さると嬉しいです。事業の中にもありましたが、月一回の健康講座・食育講座、公園での体操・伏見区近辺のウォーキングとか？
- ・ 先日、10/22伏見医師会の市民講座（公開）に参加し、健康寿命延伸にはロコモ対策が大事であることを学びました。私は「ロコモ」を初めて知りましたので大変興味深く、ロコトレを少しずつ実践していこうと思います。「フレイル」とセットで「ロコモ」を啓発していただけると有難いです。
- ・ 昨年10月から対象が拡大した産後ケア事業について、利用者負担軽減など、取り組みも進んでいるが、その成果や課題を利用者の声からも検討されたい。
- ・ “ひきこもり”を対象にされていることはよいと思いました。

思春期事業として、不登校に関することや、朝起きられない起立性低血圧、頭痛などにも係って、改善していけたら良いなと思いました。

- ・ 今の時代、コロナによる人の関心が薄れて、参加することで感染拡大に繋がる可能性があり、事業取組のカベになっている様に思う。

- ・ 醍醐地区のう歯罹患率の高さに対しては、平成30年度から醍醐独自の取組として「歯っぴースマイル大作戦」として取り組んでいるところです。う歯の罹患は、家庭環境や様々な複合した生活習慣とも関係があると考えられるため、関係機関とも連携し、これらの取組の経年的な効果も検証しながら、罹患率の改善を図ってまいりたいと思います。
- ・ 「フレイル」とは、年齢を重ねることにより、からだやこころが弱った状態のことをいいます。一方、運動器（骨や関節、筋肉など）が衰えて、歩く、立つ、座るなどの移動機能の低下をきたした状態を「ロコモティブシンドローム（ロコモ）」といいます。そして、要介護となることを防ぎ、健康寿命を延ばすためには、フレイル対策の一環としてロコモ予防が重要となります。

伏見区では、健康寿命の延伸を目指し、若い世代に向けた健康教室や出前教室、定期的にご参加いただく事業として庁舎での体操、ウォーキングや地域の健康づくりの担い手を育成する健康づくりサポーター養成講座など様々な取組を新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施しているところです。

今後、より多くの地域住民の皆様が、自主的に健康づくりに取り組んでいただけるよう、介護予防推進センターや地域包括支援センターとも連携し、各種取組の周知と効果的な事業展開に努めてまいります。
- ・ 産後ケア事業とは、産後の母親が身近な地域で安心して育児を開始し、子どもが健やかに成長できるよう、生後1年未満の乳児及びその母親を対象に、医療機関等でのショートステイやデイケアを通じて心身のケアや支援を行う「京都市スマイルママ・ホッと事業」のことですが、より使いやすく、効果がある制度となるよう、本事業の申請窓口となる区役所・支所におきましても、利用者の声をしっかり受け止めて事業を行ってまいります。

【その他（感想等）】

- ・ コロナ禍での事業取組は大変だと思いますが、保健所を始め、区役所の方々には心から敬意を表しますと同時に感謝申し上げます。運営等出来る事があれば尽力したいと思います。

3 その他

- ・ 高齢化が進み、少子化が歯止めにならないので、難しい時代の中、コロナによる心の病も増加。小さい間に理解を出来る所が増えて行く様なになれば良いと思いますが、とても大変な問題ですが。
- ・ 行事が行われる曜日や時間帯がとても限定的なので、もう少し、幅をもたせてたくさん開催できれば良いなと思います。

ex:健康調理実習は AM に限定していますが、中年男性なども参加できる時間帯も考慮するなど。
- ・ 働き盛り世代（男性も女性も）が、なかなか健康ということを忘れがちになるので意識をむけられるような取り組みができれば良いなと思いました。

- ・ 予防医学、自己で取り組める運動、動画配信など。

- ・ 保健福祉センターが実施する各教室等において、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン配信や動画の活用や事業を細分化（複数回開催）する等、新たな手法での事業を実施しているところです。これらの事業効果や課題を踏まえ、これまで保健福祉センターの事業に参加が難しかった働き盛りの世代（若年・中年世代）にも参加しやすい事業開催のあり方を検討してまいります。